

“おなめ”は各地の牛の改良の基

■筆者プロフィル■
わたなべ・ひろなお
1954年、新温泉町浜坂出身。県職員として畜産行政に長年携わってきた。県立但馬牧場公園「但馬牛博物館」館長。

栃木県のある中学校から、合唱曲「たじま牛」を歌つことになったので、但馬牛の資料を送ってほしいという手紙が届いた。

1950年代、かけがえのない労働力としてほとんどの農家が牛を飼い、人と牛が一つ屋根の下で家族同然に暮らしこともども子牛ときようだいのように接していた。

この歌はそんな但馬の山村で、子牛を市場に出荷する別

1944年に、兵庫県の但馬牛や鳥取県の因伯牛といった日本在来の牛を、ひとまとめて黒毛和種といふ品種

ができた。そして全国各地で品種改良が盛んに行われるよ

うになり、但馬牛の雌牛は各地の牛の改良の基になる牛と

役に立たないだろうと思った時、「あれがある！」と思いついた。

出された本がある。それは、関

た。

ちなみに1950年代の但馬牛の平均価格を計算する

生れると「これで兄ちゃん

ほしいと願つたり、連れてい

る。

そんなことから、おなめが

日、優しい飼い主に買われて

和田たかおさんが書かれた

宮中学校の先生をされていた

渡辺 大直

「牛飼いつ子物語」だ。この本には、1950年頃

の小・中学生が牛と一緒に暮らした生活記録が、日記や作文、劇のシナリオなどの形で収められている。

当時の子どもたちにとって、生まれてくる子牛がおなめ(雌)であるかこつて(雄)であるかは重大関心事だった。

昭和36年撮影の新温泉町桐岡付近の民家。牛は一つ屋根の下で家族同然に暮らした=「兵庫の牛のものがた里」吉野雅之写真資料(但馬牛博物館蔵)



★17★



かかる子牛を見ながらそっと涙拭つたことなどが、この本には書かれている。そんなこの本は一面、現在の黒毛和種という日本固有の肉用牛の遺伝子の半分近くを、但馬牛の遺伝子が占める過程の記録でもある。

合唱曲「たじま牛」を理解するにはこの本がピッタリだと思うのだが、この本をみんなで読み回しするのはいさき大変だ。すると再び記憶中枢が「どこかにビデオがあつたんじゃない?」と教えてくれた。それで田原課長に手伝つてもうつて、ビデオラックをひつかきまわして「牛飼いつ子物語」を映画化したビデオを見つけ出し、「牛飼いつ子物語」の前書きとビデオ、それに当時の写真を何枚か送つた。

栃木県の中学生たちが合唱曲「たじま牛」を理解し、素晴らしい合唱を披露してくれることを願う。